



サリーのピアス

年 組 ()

ユキホは学級委員だ。だから、学級のルールを守らない人には、きびしく言う。

「ちょっと、ハルト。シャープペンシルを持ってくるのは禁止なんだよ！」

「ちえっ、ユキホはきびしいんだから。」

きびしく言うことで、みんながルールを守る。すると、気持ちよくすごせるようになる。それって、すてきなことじゃないかなと、ユキホはいつも思うのだ。

あるとき、クラスに転校生がやってきた。イギリスからやってきたサリーだ。

「こんにちは。今日からよろしく。」

お母さんが日本人、お父さんがイギリス人のハーフで、日本語もペラペラだ。サリーは日本のアニメが好きで、とてもくわしかった。ユキホとサリーは、たちまち仲良くなった。

休み時間に、ハルトが言った。

「サリー、耳につけているの、それは何？」

「これはピアスよ。」

「そういう学校に要らないものは、つけてきたらダメなんだぜ。」

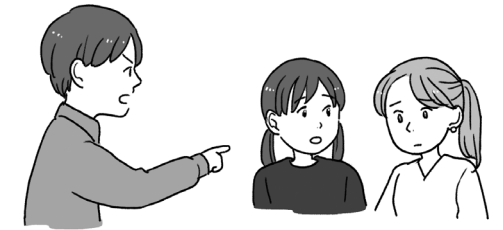
「でも、イギリスではこれが普通だったし、宝物だから。」

サリーはうつむいてしまった。

ハルトは、たたみかけるように言う。

「学校には、ルールがあるんだよ。それを守らないと。なあ、ユキホからも、学級委員として言ってやってくれよ。」

ユキホは、うつむいているサリーの顔を見た。



ユキホは、サリーに「ピアスをつけてもいい。」と言うべきでしょうか。それとも「つけてはいけません。」と言うべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合っ考えたことを書きましょう。
